

■ 四半期連結貸借対照表

科目	期別 当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	前第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部			
流動資産	13,496	13,255	12,830
固定資産	9,847	10,228	10,416
有形固定資産	5,555	5,704	5,667
無形固定資産	2,870	3,005	3,153
投資その他の資産	1,422	1,518	1,596
資産合計	23,344	23,483	23,247
負債の部			
流動負債	2,115	2,068	2,141
固定負債	1,054	1,061	1,112
負債合計	3,170	3,130	3,253
純資産の部			
株主資本	19,746	19,678	19,660
その他の包括利益累計額	417	663	315
新株予約権等	9	11	17
純資産合計	20,173	20,353	19,993
負債純資産合計	23,344	23,483	23,247

■ 四半期連結損益計算書

科目	期別 当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	5,346	4,467
売上総利益	1,560	1,273
販売費及び一般管理費	1,333	1,181
営業利益	227	91
経常利益	274	104
税金等調整前四半期純利益	277	105
四半期純利益	102	△25

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科目	期別 当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	665	242
投資活動によるキャッシュ・フロー	△646	△588
財務活動によるキャッシュ・フロー	△50	△53
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,530	1,914

貸借対照表

売上増加に伴って現金及び預金が増加し、流動資産は前期末から240百万円増加しました。一方、精能光學股份有限公司の株式の一部売却に伴い投資有価証券が減少したことや、機械装置やのれんの減価償却が進み、固定資産は前期末から380百万円減少しました。この結果、総資産は前期末から139百万円減少しています。また、材料等の買掛金が増加したことで、負債合計は前期末から40百万円増加しました。純資産は、為替換算調整勘定の減少等により、前期末から179百万円減少いたしました。

損益計算書

不二電子工業株式会社は前年5月に子会社化したため、前年同期は4ヶ月間の計上でしたが、当期は6ヶ月間の業績を計上しています。金型やレンズの販売も上向き、売上高は前年同期から879百万円増加しました。売上高が増えたことで損益は改善し、四半期純利益を黒字転換することができました。

キャッシュ・フロー計算書

第2四半期末の現金及び現金同等物の残高は2,530百万円となり、前期末から70百万円減少しました。資金増加の主な要因は、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等であり、資金減少の主な要因は、定期預金の預入れと払戻しの差額や固定資産の取得による支出、法人税等の支払額等であります。

■ 株式の状況

発行済株式総数	9,333,654株
株主数	3,538名

■ 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-782-031 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の 本店および全国各支店で行っております。

株式会社精工技研 広報課

〒270-2214 千葉県松戸市松飛台296番地の1

TEL 047-388-6401(直通) FAX 047-388-4477

E-mail ir@seikoh-giken.co.jp WEB http://www.seikoh-giken.co.jp

決算のポイント

株主通信

第43期 第2四半期事業報告

平成26年4月1日～平成26年9月30日

ごあいさつ

平素より当社に対しまして格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

当連結会計年度は、グループ内会社間の連携強化に注力しております。

昨年5月に連結子会社に加えた不二電子工業株式会社との交流も活発化しており、両社のシナジーによる新たな付加価値の創出に向けて取り組んでおります。当第2四半期連結結果計期間は精機セグメントの事業損益が改善し、連結四半期純利益を回復させることができました。今後もグループの総合力で、継続的に力強く成長できる事業体質の構築に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

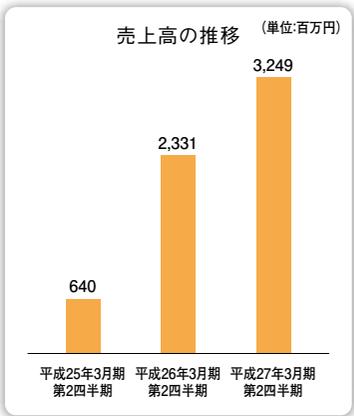
上野 昌利



精機事業 超精密金型 / 精密加工 / レンズ

業界最高水準の金型技術と精密加工技術で、お客様の製品開発と生産性向上を支援します。

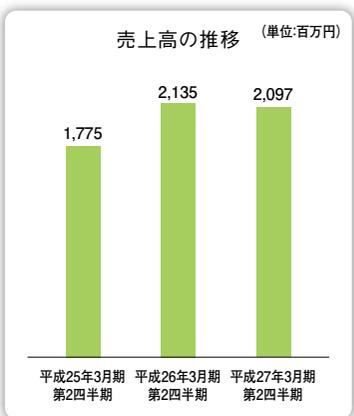
自動車関連市場の拡大を背景に、車載用センサー等の精密成形品は堅調に売上を伸ばしています。精密金型関連では、光ディスク成形用金型を主体にしなが、高い精度が要求される成形品に向けた射出成形用金型のビジネスが拡大しています。スマートフォンや携帯電話に搭載されるカメラ向けの高耐熱レンズは、比較的安価なスマートフォンの普及を背景に売上が増加することとなりました。これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,249百万円となりました。



光製品事業 接続部品 / 光部品 / 製造機器

光通信ネットワークの高速・大容量化を支える高精度な技術・製品を提供します。

スマートフォンの普及や動画配信の増加等を背景に、インターネットを介して流れる情報データ量は増大しています。これを受けて、光通信網やデータセンター等の設備の敷設は拡大基調で推移していますが、汎用的な光通信用品の市場単価の下落圧力は恒常的となっています。このため、一部の製品については中国の子会社に生産を移管し、現地での部材調達を推進したほか、製造工程の見直し等による原価低減に取り組みました。これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,097百万円となりました。



「お客様の目指すビジョンの実現に向けて、最も近くにおいて、頼れる存在でありたい。」当社グループは、そうした考えのもとに事業を展開しています。創業以来培ってきた精密加工技術をベースに、常に「小型」「精密」「光学」にこだわりを持ちながら、市場の動向を捉えた製品ラインアップを拡大してまいりました。今回は、株主の皆様へ、当事業についてよりご理解をいただくべく、主要製品群のご紹介をいたします。これからも、社内に有する技術の研鑽と社外の優れた技術との融合を図りながら、世界中の人たちの暮らしをより便利に、より快適にする製品を提供し続けたいと考えています。

精機事業

超精密金型

光ディスク成形用金型の世界トップメーカーとして培った金型技術を応用し、あらゆる形状の成形品を生み出す超精密金型を生産しています。不良品の減少、樹脂材料の減量、成形スピードの向上等、成形メーカーの生産性改善に貢献しています。



車載用・電子機器用成形品

平成25年5月に当社グループに加わった不二電子工業株式会社では、インサート成形やプレス成形等の優れた成形技術によって独自の精密成形品を開発。自動車やスマートフォン等の市場において安定した顧客基盤を築いています。



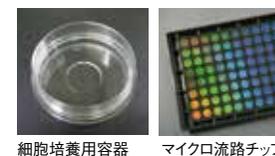
高耐熱レンズ

高い耐熱性を特長とする小型レンズをスマートフォンのカメラ用途に製造しています。今後、車載用センサーやウェアラブル端末等、多方面への展開が期待されます。



医療用・バイオ用成形品

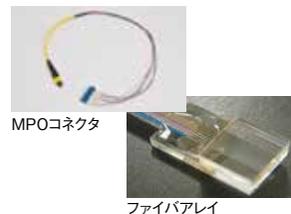
超精密金型技術をベースに、「細胞培養用容器」や「マイクロ流路チップ」等、医療・バイオ関連市場に向けた製品を開発。ナノメートルレベルの微細な凹凸や、0.3mm以下の薄肉製品を射出成形によって実現しました。



光製品事業

光通信用品

高速、大容量化する光ネットワークの拡大を支える基幹部品は、小型化、多芯化といった進化を見せています。市場の拡大と共に需要量が増加。一方、汎用的な部品の市場価格は下落が続いています。



光伝送装置・光電界センサー

電気信号を光の情報に変換する技術を用いて、デジタル映像の伝送や、電気機器が発信するノイズを正確に測定するセンサー等を開発。放送業界や自動車業界に向けてオリジナリティある製品を提供しています。



光部品製造機器

光通信用品の製造現場や敷設現場で用いられる機器や器具を揃えています。光ファイバの端面を研磨する「光コネクタ研磨機」は世界の光コネクタメーカーが使用する標準機としてトップシェアを誇っています。



X線透視CT装置

フランスのDATA-PIXEL社の系列会社が開発した産業用X線透視CT装置をラインアップに加えしました。物体の内部構造を正確に透視し、3次元グラフィックス化できるこの装置を、公的な研究機関や民間の研究所等に拡販していきます。

